

② 家庭・地域の教育力

核家族化に加え、共働き家庭の増加などの家庭環境の変化により、親から子へ受け継がれてきた子育ての知恵・経験の伝承ができにくくなったり、親同士のコミュニケーションが希薄となったりしたことにより、子育てに悩みをもつ親が増加しています。このため、「子育て講演会」「親子のふれあいレクリエーション」を実施し、幼児をもつ保護者や子育て支援関係者等に、子育てに関する学習の場を提供しています。

また、「早寝早起き朝ごはん」県民運動生活リズム向上事業（※7）に伴う「ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”チャレンジカード」の活用を市内各学校園に働きかけています。

今後は、より多くの子育て中の保護者や子育て支援関係者等に学習情報を届けたり、だれもが参加しやすい環境を整えたりするなど子育てを中心とした家庭教育に関する学習の場、交流の場を充実していく必要があります。また、学校・家庭・地域の連携、協力を進め、社会全体で次代を担う子どもたちを育てていく意識を高めていく必要があります。



写真4 「子育て講演会」(左)と親子のふれあいレクリエーション「カブラで遊ぼう」(右)

③ 青少年健全育成

青少年育成センターの職員が学校や家庭・地域との連携を密に行うとともに、定期的に補導・相談活動に取り組んでいます。

放課後子ども教室推進事業を実施し、子どもたちにさまざまな体験活動の場や地域住民との交流活動の機会を提供するように努めています。

また、市内の学校園等に花の苗を提供し、子どもたちが心豊かに生活するための環境づくりを支援したり、新成人による実行委員会形式での成人記念式の実施、わくわく体験教室等の事業でのボランティア活動など、青少年が主体的に活動できる場を提供したりすることにも努めています。

今後は、思いやりの心をもって自立できる青少年の育成を支援していくため、よりいっそう学校・家庭・地域等と連携を密にし、地域の教育力を高めていくことが必要です。また、少子化が進んでいる中、子ども同士の交流の不足など社会性を培う場が少なくなっているため、交流や体験の場、さらには生きがいや人生の目標を見出すことを目的とした学習の場を充実していく必要があります。

※7 「早寝早起き朝ごはん」県民運動生活リズム向上事業 子どもの望ましい基本的生活習慣を育成し、生活リズムの向上を図ることをめざした事業



写真5 放課後子ども教室での活動

④ 子ども読書活動

図書館では、「ブックスタート」（19ページ参照）や「えほんよんで」（※8）など親子で読書を楽しむことの大切さを理解してもらう取組、ボランティア団体と市内学校園との連携を図った取組を行っています。また、ドリームブックネット総社（※9）を中心として地域の読み聞かせボランティア団体が連携を取りながら、子どもの読書活動を進めています。

幼稚園では、読み聞かせの実施や親子読書の推進、小中学校では朝読書の実施や、図書室の本のデータベース化により家庭での検索が可能になったことなどにより、子どもたちがより本に親しむことができるような環境を整備しています。

今後は、子どもたちの読書環境が悪化してきているという現状をふまえ、確かな読書活動推進のために、「第2次総社市子ども読書活動推進計画」（※10）を基に、図書館・学校園・家庭・ボランティア団体を含む地域が十分な連携を取りながら、子どもの読書活動を進め、子どもたちの言葉の力や想像する力等の育成に取り組んでいく必要があります。

⑤ 高齢化社会への対応

総社市の老年人口が増加する傾向にある中、学習意欲をもち学び続けたいという高齢者も増加してきていると思われます。そのため、生涯学習まちづくり出前講座事業や公民館等での講座を通して、高齢者の主体的な学習活動の支援を行っています。また、学んだことを活かして子どもたちの健全な成長のために活動する場の提供にも努めています。

今後は、高齢者が健康で充実した人生を送るために、新しい教養と知識の習得の機会や、これまで培ってきた経験を活かせる場を提供・充実していく必要があります。

※8 「えほんよんで」 絵本の紹介や読み聞かせのあり方などを紹介する事業。リーフレットの配布や健診時での啓発活動を実施

※9 ドリームブックネット総社 市内で活動している、子どもの読書活動に関わるボランティア団体の情報交換や連絡調整を目的としたネットワーク

※10 第2次総社市子ども読書活動推進計画 第1次総社市子ども読書活動推進計画（平成17年度～21年度）での取組の成果や課題を整理し、今後さらに子どもの読書活動を推進していくために策定した今後5年間（平成22年度から26年度）の計画